【別紙様式１】

大分市立碩田学園　学力向上プラン１（８月）

取組番号③

学校教育目標	夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成
育成を目指す資質・能力	グローバル社会に主体的にかかわり、未来を創造的に切り拓く確かな学力をもった児童生徒の育成

児童生徒の課題

学力状況について

各種学力調査の分析結果から明らかになった課題

全学年とも県や全国の平均は、超えている。その中で、(5年国語)登場人物の気持ちについて、叙述的にとらえるができていない。(6年国語)発言の理由を適切に選択できない(5年算数)小数×整数、分配法則の決まりを理解できていない。(8年数学)データの分布の傾向を正しくつかむことができない。(9年数学)与えらえた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができない。(9年理科)他者の考えについて多面的・総合的に検討し改善できるか等、与えられた条件等をうまく活用するなどに課題が見られた。

学習状況について

各種学力調査の分析結果から明らかになった課題

学習に取り組む上で計画性が不足している傾向がある。また苦手教科がはっきりしている児童生徒が多く、教科によって取組にムラがある。ただし、質問紙によると、「テスト結果のやり直しを行っている」の問いに、肯定的な回答は、5年生は89．5ポイントで全国より10．6ポイント高く、県より3．6ポイント高い、また8年生に至っては、全国より20．5ポイント高く、県よりも16．4ポイント高い、間違った所・分からないところをなくそうとする意識は高い。

これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)

新大分スタンダードを意識した授業実践に取り組んできた。成果として、6年生では国語科の「書くこと」において、5年生の時は県平均より6ポイント低く、課題であったが、本年度は、県平均より10ポイント高くなった。また、9年生においても、「書くこと」は8年生の時は、3.9ポイント県平均より高かったが、9年生の調査では、県平均より8．8ポイント高くなっていた。昨年度までの取組、「短作文等の添削指導を繰り返し行い、自分の考えを述べる際も必ず根拠を書かせる指導」の結果について、その成果を教職員全体で共有し、このような好事例の実践に取り入れた。この取組が実を結んだことが分かる。

指導の状況

１ 組織的な授業改善の取組状況

新大分スタンダードを意識した授業（重点：生徒指導の3機能を生かした授業）やICT機器をバランスよく利用し、板書の構造化を行っている。具体的には、、問題解決的な授業の工夫や対話を重視した授業の工夫により、生徒指導の3機能を仕組む、また、めあて・課題・まとめ・振り返りを適切に設定した。児童生徒に行った学校評価によると「授業は分かりやすいですか」の問いに対して肯定的評価の割合が90％であった。そして、職員に行った学校評価によると、「あなたは「生徒指導の3機能」を意識した授業づくりに取り組めていると思いますか。」の問いに対して89.2％が意識して授業作りを行っている。しかし、「板書の構造化に意識した授業づくりに取り組めていますか」の問いに対して、肯定的評価の割合が73.8％と目標値よりも低い数値であった。

２ その他の学力向上に向けた指導の取組状況

家庭学習の習慣化を目指して、発達の段階に応じて作成した「碩田学園家庭学習の手引き」を年度当初に配布し、活用している。そして既習内容の定着を図り、授業と連動した家庭学習の実施と継続した指導を行っている。また読書指導では、低学年から、読み聞かせを利用して個に応じた計画的かつ継続的な指導を実施している。その他に、1～6年えいごコミュニケーション・外国語と3～6年音楽専科授業等に取り組んでいる。欠員のため、例年のような、5・6年生の後期課程教員の乗り入れや6・9年生の習熟度授業、5・6年生の教科担任制が1学期は行えていない。

学力に関する達成指標

単元末テスト又は定期試験における低学力層（前期課程60点、後期課程30点以下）をそれぞれ8％、13％以下にする

今後の具体的な取組

【授業改善】

〈授業改善のテーマ・重点〉

（授業改善テーマ）
児童生徒の主体性を育む義務教育学校の在り方
（授業改善の重点）
・生徒指導の3機能を活用した指導法の工夫・板書の構造化

〈取組内容〉

授業改善の取組
〇生徒指導の3機能を生かした学習展開〇つなぐ・つながるを意識した問題解決的な授業や対話を重視した授業〇めあて・課題・まとめ・振り返りの適切な設定とバランスを考えたICTの活用〇学習サイクルの充実（スキルタイム・朝学習）＋授業＋家庭学習＋α（補充学習等）〇互見授業を活用した授業力向上〇授業の5原則の徹底

〈取組指標〉

〇生徒指導の3機能を生かした授業展開　教職員アンケート85％以上〇プレート（本時の目標・課題・今日の流れ・まとめ・振り返り）を活用した授業展開　100％〇ICTの活用を1単元に1回以上〇毎時間、授業5原則に基づく学習指導の実施（2分前着席、私語なく集中、しっかり聞く、はっきり話す、自ら学ぶ）〇家庭学習の習慣化を図る「碩田学園家庭学習の手引き」の活用　100％〇互見授業実施計画に沿った互見授業実施・全員のフリー参観実施　100％

〈検証指標〉

〇授業が分かりやすいという児童生徒の肯定的評価90％以上にする。
〇家庭学習についてよくやっているという保護者の肯定的評価を80％以上にする。
〇板書の構造化に取り組む教職員100％

【家庭・地域との協働】

〈家庭・地域の取組内容〉

（達成指標）

〇家庭学習習慣の肯定率80%
〇家庭での対話・声かけ率100%

〈家庭・地域の取組指標〉

〇毎日、家庭で対話をする。〇毎日、家庭学習について声かけや励ましをする。〇年間3回以上、学校行事（授業参観等）に参加する。〇地域で出会った子どもに、あいさつや声かけを行う。

〈家庭・地域の検証指標〉

家庭学習についてよくやっているという保護者の肯定的評価を80％以上

【授業改善以外の学力向上の取組】

〇補充学習の実施・個に応じた指導・習熟度別の宿題（低学力層の底上げ）
〇読書指導
〇少人数指導・習熟度別指導等の実施
〇学習サイクルの充実